

「人財」でお困りなら

株式会社 ミヨシ・ロジスティクス
042-779-6619 <http://miyoshi-log.co.jp/>

株式会社 クライムエヌシー

KANAKEI
かながわ経済新聞

人と会社を育てる Business Design
<http://www.business-design.co.jp/>
042-730-7886

2017年 7月号 Vol.0

オンラインプログラムで勝負する胸沢化成(6面) ●新連載「つし」を出さない職場

採用からの人材教育

前回予告では「指差呼称の有効性」―安全の基本ルール・緊急時の対応―についてお話しする予定でしたが、「指差呼称」だけでもかなりの星があるのでは？今回は「指差呼称の有効性」を中心に説明したいと思います。そもそも「指差呼称」とは何か。製造現場に行かない人は分からないと思いますが、よく駅のホームで車掌さんが、電車が入ってくるタイミングや出ていくときに指をさして確認している姿を見かけると思いませんか。まさにこのように、非常に重要な行動と云えます。「何も指差呼称しなくても目視だけで確認すればよいのでは」と思う人もいますが、実は目視だけの場合と、この「指差呼称」をした場合の正確度は3倍違うとされています。大脳生理学的にも「口の周りの咬筋(こうきん)の伝える刺激は脳を的確に処理できる状態にする(腕の筋肉の中の筋繊維「せんしゅうすい」という細胞の刺激は大脳の働きを

活発にする)指さしによる運動知覚、呼称による対象認知の正確度が高まる」などと言われます。「目で見て対象物を指さす」―自分の目で呼称する―などの行為をメリハリ良く行うことで脳細胞を活性化し、的確に物事を処理できるようになるのです。

この行動は会社の安全活動ではなく品質の向上にもつながります。自動車などの運転などにも役に立つと言われます。また「指差呼称」はTPOを選ばずに行うべきです。▽コストがかからない▽いつでもどこでも、気軽に行うことができる▽終生できる

▽年の差、男女を問わないこれらの理由から入社時における安全教育にはとても重要であり、効果的であると考えています。さて、今回は「安全の基本ルール・緊急時の対応」について話します。

(ミヨシ・ロジスティクス代表取締役/南西フォーラム委員長)

吉田英訓の
着眼大局 着手小局
～人と企業へ～



かながわ経済新聞
2017. 7月号
吉田 英訓の
連載記事が掲載されました。



● 県内新車市場、8カ月連続プラス(2面) ● 7社が県内に新拠点